



TOYOTA INDUSTRIES CORPORATION BUSINESS REPORT

株主のみなさまへ

第127期 事業報告書

2004年4月1日から2005年3月31日まで



株式会社 豊田自動織機
TOYOTA INDUSTRIES CORPORATION

目次

■ 株主のみなさまへ	2	
■ 連結業績の概要	3	
■ トピックス	5	
■ 当社事業のご紹介	7	
■ 連結決算	連結貸借対照表	9
	連結損益計算書	10
	連結キャッシュ・フロー計算書	
■ 単独決算	貸借対照表	11
	損益計算書	12
	利益処分	
■ 会社の概況	株式の状況	13
	会社の概要	14
■ 株主メモ		裏表紙
ホームページのご案内		



【将来見通しに関する記述についての注意】

この事業報告書において、当社の現在の計画、見通しなどのうち歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた、当社の経営者の信念および判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しの上に全面的に依拠することは控えてください。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争、圧力、関連法律・法規、為替相場の変動などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日ごろより、株式会社豊田自動織機ならびに豊田自動織機グループ各社をご支援いただきまして、まことにありがとうございます。

第127期事業報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当期の連結業績につきましては、フォークリフトの台数増加などにより、売上高・経常利益ともに6期連続の増収増益となり、過去最高を更新いたしました。また、2002年度スタートの中期売上目標(2005年度売上高1兆2,000億円)につきましても、グループの総力をあげた推進が実を結び、1年前倒して達成できました。

当期の配当金につきましては、昨年11月に中間配当金として1株につき13円をお支払いいたしました。期末配当金は、前期に比べ7円増配の、1株につき19円とさせていただきます。なお、年間としましては、前期に比べ8円増配の、1株につき32円となりました。これにより、2000年度から5期連続の増配となります。今後も、業績・資金需要などを勘案いたしますとともに、連結配当性向も重視し、株主のみなさまのご期待におこたえてまいりたいと存じます。

当社は、品質第一を基本に、安全・環境などに配慮しながら、お客さまのニーズを先取りした商品・サービスの開発・提供を推し進め、社会と調和した成長・発展を目指してまいります。それにより、企業価値の向上をはかり、株主のみなさま、お客さまをはじめとする当社にご関係の方々のご期待におこたえて、企業の社会的責任を誠実に果たしてまいりたいと存じます。今後も引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2005年6月



取締役会長 **横井 明** 取締役社長 **石川忠司**

連結業績の概要

営業の概況

当期においては、米国経済は拡大を続け、欧州経済も底堅さを保つなど、海外景気は着実に回復してきました。日本でも、雇用情勢に依然として厳しさが残るなど、個人消費は本格的な回復には至らないものの、企業収益の改善などに伴い民間設備投資が増加し、景気は緩やかながらも回復基調を持続してきました。

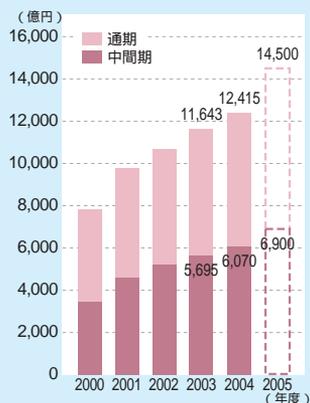
このような状況のなかで、当期の売上高については、各事業における積極的な拡販活動などにより、前期を772億円(7%)上回る1兆2,415億円となりました。

利益については、原油・鋼材などの原材料価格の高騰や人件費・生産準備費用の増加、為替変動による影響などの減少要因がありました。しかしその反面、国内外での売上の増加に加え、生産性の向上やグループ

あげての原価改善活動の効果、ソニー(株)との合併会社エスティ・エルシーディ(株)の業績拡大による貢献などの増加要因がこれらを上回り、経常利益は前期を120億円(20%)上回る709億円となりました。当期純利益は前期を97億円(29%)上回る433億円、1株当たり当期純利益については、前期を27円上回る135円となりました。

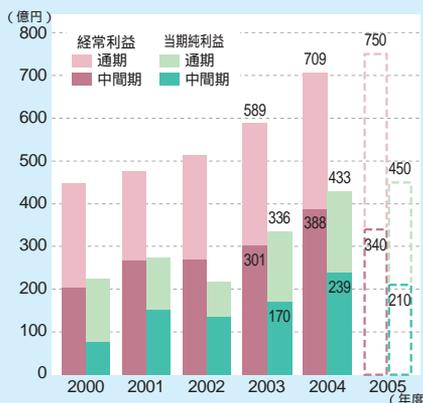
次期の業績については、1ドル105円の為替相場を前提に、売上高は当期を2,085億円(17%)上回る1兆4,500億円、経常利益は当期を41億円(6%)上回る750億円を見込んでいます。また、当期純利益は当期を17億円(4%)上回る450億円、1株当たり当期純利益は当期を6円上回る141円を予想しています。

売上高

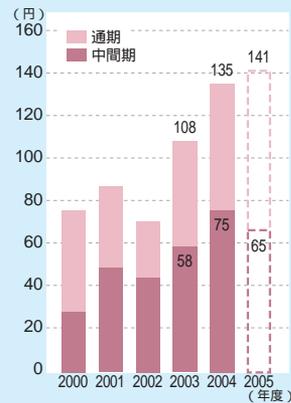


(注)2005年度については予想値です。

経常利益・当期純利益



1株当たり当期純利益



セグメント情報

【自動車】 車両は、北米向けカローラとヤリス(欧州向けヴィッツ)は減少しましたが、欧州向けRAV4の増加や国内向けヴィッツのフルモデルチェンジ(2月)の効果により、売上高は前期並みの2,788億円となりました。

エンジンについては、UZ型ガソリンエンジン(ランドクルーザーに搭載)などは減少しましたが、CD型ディーゼルエンジン(RAV4などに搭載)が増加し、売上高は前期を59億円(6%)上回る1,132億円となりました。

カーエアコン用コンプレッサーは、海外市場で搭載車種の一部の販売が伸び悩んだことに伴い、売上高は前期並みの1,979億円となりました。

これらの結果、この部門の売上高は前期を124億円(2%)上回る6,162億円となりました。それに対して、営業利益は、モデルチェンジなどに伴う生産準備費用や減価償却費の増加ほかの影響により、前期を48億円

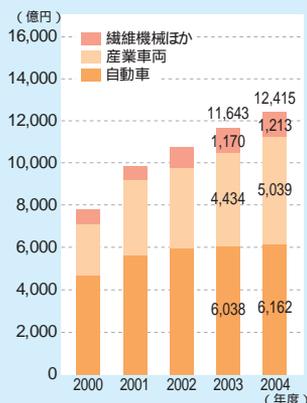
(17%)下回る227億円となりました。

【産業車両】 トヨタブランドについては、国内では提案型営業の推進などをはかり、海外でも各地域の販売網の拡充などをはかるとともに、大口顧客への拡販活動を強化しました。これらにより、2004年(1~12月)には、前年を21%上回る10万3千台を販売しました。また、BTブランドも、積極的な販売活動と北米・欧州市場の好調により、売上高が前期を大きく上回りました。

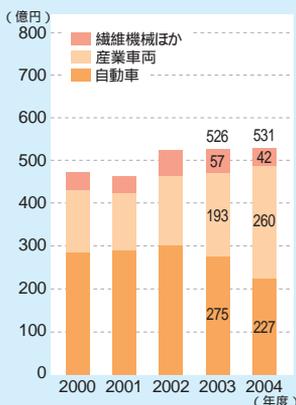
これらの結果、この部門の売上高は前期を605億円(14%)上回る5,039億円となり、営業利益は前期を67億円(35%)上回る260億円となりました。

【繊維機械】 パキスタン向け精紡機の受注は増加しましたが、主力の中国向けエアジェット織機などの受注が減少し、売上高は前期を20億円(4%)下回る439億円となりました。

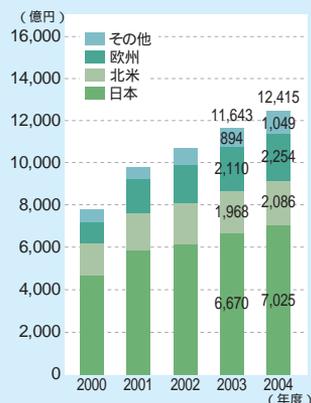
事業別売上高



事業別営業利益



市場別売上高

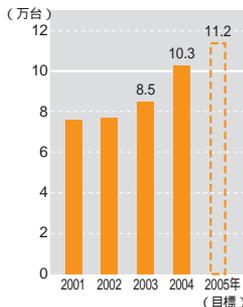


トヨタブランド産業車両の世界販売 年間10万台超えを達成

トヨタブランドで販売している産業車両(フォークリフト・ショベルローダーなど)の2004年(1～12月)の全世界での販売台数が10万3千台となり、過去最高を記録しました。単一ブランドとしては世界初の、年間10万台超え達成となります。

なお、2004年の国内フォークリフト販売シェアについては、2003年の過去最高と並ぶ42.6%となり、39年連続のNo.1かつ6年連続の40%超えを達成できました。

トヨタブランド産業車両
世界販売台数



中国にコンプレッサー生産会社を設立

6月、カーエアコン用コンプレッサー生産会社「豊田工業電装空調圧縮機(昆山)有限公司」を(株)デンソー・豊田通商(株)・TIK*との合弁で、江蘇省昆山市に設立しました。2006年4月から省燃費にすぐれた可変容量型を生産します。また同月、デンソー・豊田通商・首鋼総公司(中国)との合弁会社「烟台首鋼電装有限公司」(1994年設立)でも、従来の固定容量型に加えて、可変容量型の生産を開始します。日・米・欧の拠点にこれら中国の拠点を加えて、コンプレッサーのグローバル生産体制をさらに強化していきます。

* TIK：豊田工業(昆山)有限公司
(中国における産業車両・鋳造品の生産子会社)

第11回ITS世界会議 愛知・名古屋2004に出展

昨年10月にポートメッセなごやで開催された、「第11回ITS世界会議 愛知・名古屋2004 - 夢いっぱいITS未来博 -」に初めて出展しました。当社ブースでは、物流センターを支えるウェアハウスマネジメントシステム、フォークリフト作業の効率化と安全を支援する情報化技術や物流に欠かせないピッキング作業支援技術など、



ITS技術を活用した近未来の構内物流を主として紹介しました。また、パーキングアシストシステムについての発表は、多くのお客さまの関心を集めました。

第2回産業車両世界大会を開催

4月、京都国際会館などを会場に、トヨタL&FとBTグループが初めて合同で、「第2回産業車両世界大会」(スローガン:「United We Grow(一丸となってさらなる成長へ向かおう!)」)を開催しました。会期中、産業車両事業の将来ビジョンや中長期目標、重点課題への取り組みについてのプレゼンテーションや、先進技術・製品の展示・紹介などを実施しました。今回の大会を通じて、世界60か国以上の販売店・協力会社から集結した1,200名を超える参加者が、いっそうの結束と目標達成を誓い合いました。



第38回東京モーターショーに出展

昨年11月に幕張メッセで開催された、「第38回東京モーターショー2004 - 働くくるまと福祉車両 -」に出展しました。今回は、バス車両用可変容量型コンプレッサー（世界初）400W ACインバータなどの初出展品のほか、構内物流機器や高所作業車、およびそれらを支える環境対応技術・エレクトロニクス技術などを紹介しました。また、当社の技術に触れ、製品を体感できるコーナーをブースに設置し、多くのお客さまに楽しんでいただきました。



外部可変片側斜板式
コンプレッサー 7S33
(バス車両用)

アサヒセキュリティの株式を100%取得

3月、物流ソリューション事業拡大・充実の一環として、小売業を中心に、集配金・売上金管理、機械警備などのサービスを提供する(株)アサヒセキュリティの株式を100%取得し、同社を子会社化しました。当社は現在、生産者から消費者までのモノの流れの全体最適を追求する、独自のビジネスモデルの構築をはかっていますが、今後これにアサヒセキュリティのきめ細かな「集配金・売上金管理」を加えて、お客さまにさらにご満足いただける、幅広く厚みのあるサービスを提供していきます。

(株)アサヒセキュリティ概要

資本金	516百万円(2005年2月末)
売上高	215億円(2005年2月期)
主要顧客	ダイエーグループ、イオングループなど

トヨタ総合物流管理システム 「T-WINS LS」を新発売

倉庫や物流センター内の入荷から出荷までの一連の物流業務をトータルに管理・支援するトヨタ総合物流管理システム「T-WINS LS(ティールウィンズ エルエス)」を、4月から販売開始しました。現場作業の基本である帳票を使う作業から導入し、無線端末を使う作業、物流機器との連携、日々の現場改善を支援する評価・分析など、必要に応じた機能の追加やカスタマイズが可能なソフトウェア構成になっており、お客さまごとに最適なシステムをご提案できます。

愛・地球博 トヨタグループ館 開館

3月、愛・地球博 長久手会場内のトヨタグループ館(メインテーマ:「モビリティの夢、楽しさ、感動」)が開館されました。「メインショー」では、未来社会のイメージ映像が流れる巨大スクリーンを背景に「i-unit(アイユニット)」や「i-foot(アイフット)」がダンスする、優雅なパフォーマンスが披露されています。i-unitの複雑な経路での無人走行を実現した自動制御(無人搬送車の誘導技術を応用)などの技術で、当社もショーに貢献しています。



i unit

当社事業のご紹介

[経営基盤 1]

車両

当社は、トヨタ自動車(株)から委託され、長草工場にて小型車の生産を行っています。現在、今年2月にフルモデルチェンジした新型「ヴィッツ」と「RAV4」を

担当しており、2005年度は2車種合わせて30万台



新型ヴィッツ

を生産する予定です。今後も、開発から生産までの一貫した活動において、総合力で高いレベルのQCD（品質・コスト・納期）を維持・向上し、それを強みとしてトヨタのクルマづくりへの貢献を続けていきます。



RAV4



ヴィッツ初号車

【新型ヴィッツ誕生】 ヴィッツは当社車両事業の柱であり、トヨタグループとしても戦略的に非常に重要なグローバルコンパクトカーとして位置づけられています。初代ヴィッツは、日本のコンパクトカー市場拡大のきっかけになっただけでなく、世界を代表するコンパクトカーとして高く評価されました。今年誕生した二代目ヴィッツには、さらに強く世界基準を意識して、クルマに最も要求されている安全・環境技術をはじめ、最先端の技術を織り込んでいます。

【画期的な生産準備】 今回の新型ヴィッツ立ち上げにあたっては、コラボ体制*1による推進、COMPASS*2や3次元データのフル活用など、さまざまな新しい取り組みに工場一丸となって挑戦しました。それにより、従来にない、効率的な生産準備プロセスを確立することができました。今後も、今回の反省をもとにレベルアップを目指します。

*1 コラボ体制：ボデー・塗装・組立などの工程別に、生産技術・品質保証・製造などの関係部門間の壁を完全に取り除いて編成した「コラボチーム」による推進体制

*2 COMPASS：トヨタ自動車が開発した工程編成支援システム。統一標準類の作成などに今回初めて活用



エンジン

当社は、自動車用・産業用のディーゼルおよびガソリンエンジン(排気量1.5~5.2ℓクラス)を生産しています。自動車用は全量トヨタ車に、産業用は当社生産のフォークリフトや各種の産業機器に搭載されています。自動車用ディーゼルエンジンの開発に



1CD型



1HD FTE型

ディーゼルエンジン

おいては、トヨタ自動車との共同により、高出力かつ低騒音・低振動・軽量化を実現。排ガスのクリーン化など、環境負荷の低減にも積極的に取り組んでいます。今後も、開発力・生産対応力を強化し、事業の拡大を目指します。

ガソリンエンジン



1FZ FE型



2AZ FE型



【TMIP稼働開始】 トヨタ自動車との合弁で欧州・ポーランドに設立したディーゼルエンジン生産拠点「トヨタ・モーター・インダストリーズ・ポーランド(有)(TMIP)」(当社40%出資)において、3月にAD型直噴ディーゼルエンジン(排気量2.2ℓ)の生産を開始しました。この新型エンジンは、英国で生産される「アベンシス」に搭載されており、欧州で生産される「カローラ」にも今後供給される予定です。なお同月、碧南工場でも、同型のエンジンを生産開始しています。

【IMV用エンジン生産開始】 6月、東知多工場で、「IMV^{*3}」に搭載されるKD型直噴ディーゼルエンジン(排気量2.5/3.0ℓ)の生産を開始しました。昨年の夏に開始した生産準備に事業部の総力をあげて取り組み、アルミ鋳造・加工・組立の一貫生産を短期間で立ち上げることができました。今後も、トヨタ「IMVプロジェクト」の世界規模での進展に貢献していきます。



東知多・新エンジン工場

*3 IMV : イノベティブ・インターナショナル・マルチパーパス・ビークルの略。
トヨタ自動車タイ・インドネシアなどの海外拠点で生産する、新興市場向けの多目的車

連結決算

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (2005年3月31日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	462,973	349,914
現金預金	84,915	57,375
受取手形および売掛金	173,459	144,575
有価証券	40,056	20,064
たな卸資産	94,024	77,574
その他	70,518	50,324
固定資産	1,863,850	1,662,080
有形固定資産	457,078	389,396
建物および構築物	132,419	124,422
機械装置および運搬具	185,424	160,787
その他	139,234	104,186
無形固定資産	116,971	99,856
投資その他の資産	1,289,799	1,172,828
投資有価証券	1,222,658	1,112,776
その他	67,140	60,051
合計	2,326,824	2,011,995

科目	当期 (2005年3月31日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	421,539	326,337
支払手形および買掛金	160,231	129,821
短期借入金	59,945	70,441
コマーシャル・ペーパー		15,000
1年以内償還の社債	20,300	
その他	181,063	111,073
固定負債	748,633	633,968
社債	230,000	200,300
長期借入金	73,491	35,224
繰延税金負債	381,787	346,335
退職給付引当金	44,462	34,264
その他	18,891	17,843
負債計	1,170,172	960,305
少数株主持分	40,904	34,926
資本の部		
資本金	80,462	80,462
資本剰余金	105,600	105,743
利益剰余金	325,330	294,672
其他有価証券評価差額金	591,218	534,078
為替換算調整勘定	29,861	19,782
自己株式	16,726	17,975
資本計	1,115,747	1,016,763
合計	2,326,824	2,011,995

(注)当期の連結子会社数は145社、持分法適用会社数は20社となっています。

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	(2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
売上高	1,241,538	1,164,378
売上原価	1,041,780	978,458
販売費および一般管理費	146,638	133,288
営業利益	53,120	52,631
営業外収益	38,284	30,183
受取利息および配当金	21,920	19,172
その他	16,363	11,010
営業外費用	20,491	23,843
支払利息	9,735	9,755
その他	10,756	14,087
経常利益	70,912	58,970
特別利益	—	621
確定拠出年金移行差益		621
特別損失	558	1,851
減損損失	558	—
内規変更に伴う過年度 役員退職慰労引当金繰入額		1,851
税金等調整前当期純利益	70,353	57,740
法人税、住民税および事業税	26,808	23,967
法人税等調整額	4,557	3,220
少数株主利益	4,744	3,370
当期純利益	43,357	33,623

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	(2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー*1	100,095	92,406
税金等調整前当期純利益	70,353	57,740
減価償却費	70,213	65,351
売上債権の増減額	22,923	11,050
たな卸資産の増減額	12,851	750
仕入債務の増減額	26,893	2,630
法人税等の支払額	22,727	30,600
その他	8,863	7,583
投資活動によるキャッシュ・フロー*2	128,230	92,667
有形固定資産の取得による支出	110,111	78,267
投資有価証券の取得による支出	9,562	14,301
その他	8,556	98
財務活動によるキャッシュ・フロー*3	50,020	56,015
短期借入金の純増減額	13,686	10,958
コマーシャル・ペーパーの純増減額	15,000	15,000
長期借入金の純増減額	33,821	4,007
社債の発行による収入	50,000	
社債の償還による支出		31,677
自己株式の取得による支出	52	17,094
配当金の支払額	7,948	7,413
その他	2,887	136
現金および現金同等物に係る換算差額	1,438	322
現金および現金同等物の増減額	23,323	55,953
現金および現金同等物の期首残高	77,212	136,929
連結子会社決算期変更に伴う 現金および現金同等物の減少額	—	3,763
現金および現金同等物の期末残高	100,535	77,212

*1 営業活動によるキャッシュ・フローとは、営業活動で生じる現金収支を表します。

*2 投資活動によるキャッシュ・フローとは、設備投資や出資といった投資活動で生じる現金収支を表します。

*3 財務活動によるキャッシュ・フローとは、資金の調達・返済、配当金の支払いといった財務活動で生じる現金収支を表します。

単独決算

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (2005年3月31日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	255,513	187,189
現金預金	28,721	29,330
受取手形および売掛金	94,774	77,066
有価証券	40,005	20,002
たな卸資産	28,246	25,139
その他	63,764	35,651
固定資産	1,724,698	1,548,133
有形固定資産	277,907	234,059
建物および構築物	84,146	80,345
機械装置および運搬具	105,212	94,075
その他	88,548	59,637
無形固定資産	9,407	9,443
投資その他の資産	1,437,383	1,304,630
投資有価証券	408,741	327,667
関係会社株式	983,626	935,192
その他	45,015	41,770
合計	1,980,211	1,735,323

科目	当期 (2005年3月31日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	238,536	170,114
支払手形および買掛金	113,485	89,635
コマーシャル・ペーパー		15,000
1年以内償還の社債	20,000	
その他	105,051	65,479
固定負債	684,846	584,674
社債	230,000	200,000
長期借入金	55,000	20,000
繰延税金負債	376,610	341,727
退職給付引当金	20,856	19,427
その他	2,378	3,519
負債計	923,382	754,789
資本の部		
資本金	80,462	80,462
資本剰余金	105,579	105,707
利益剰余金	297,087	278,962
其他有価証券評価差額金	590,426	533,377
自己株式	16,726	17,975
資本計	1,056,828	980,533
合計	1,980,211	1,735,323

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2004年4月1日から 2005年3月31日まで	2003年4月1日から 2004年3月31日まで
売上高	784,399	749,616
売上原価	695,564	663,258
販売費および一般管理費	58,758	55,024
営業利益	30,075	31,334
営業外収益	20,653	15,877
受取利息および配当金	14,936	11,634
その他	5,716	4,243
営業外費用	10,943	12,506
支払利息	3,700	3,575
その他	7,242	8,930
経常利益	39,785	34,705
特別利益	—	621
確定拠出年金移行差益		621
特別損失	144	1,851
減損損失	144	
内規変更に伴う過年度 役員退職慰労引当金繰入額		1,851
税引前当期純利益	39,641	33,475
法人税、住民税および事業税	16,802	15,560
法人税等調整額	3,481	3,188
当期純利益	26,320	21,103
前期繰越利益	77,055	64,043
中間配当額	4,136	3,904
当期末処分利益	99,238	81,243

利益処分

(単位:百万円)

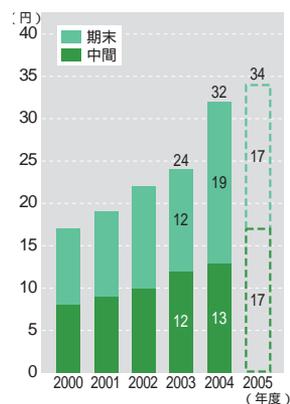
摘要	当期	前期
当期末処分利益	99,238	81,243
特別償却準備金取崩額	128	96
固定資産圧縮積立金取崩額	7	8
合計	99,374	81,347

これを下記のとおり処分します。

株主配当金	6,046 (1株につき19円)	3,811 (1株につき12円)
取締役賞与金	250	220
監査役賞与金	29	26
特別償却準備金	96	234
固定資産圧縮積立金	137	
別途積立金	20,000	
次期繰越利益	72,814	77,055

(注)2004年11月26日に、1株につき13円、総額4,136百万円の中間配当を実施しました。

1株当たり配当金



(注)2005年度については予想値です。

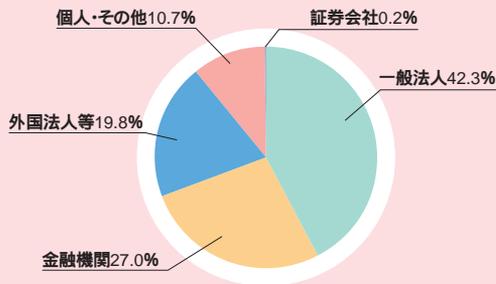
会社の概況

株式の状況

(2005年3月31日現在)

発行する株式の総数 1,091,245,000株
 発行済株式総数 325,840,640株
 株主数 17,279名

所有者別株式分布状況



大株主(上位10名)

株主名	株式数 (千株)	議決権 比率(%)
トヨタ自動車(株)	76,600	24.10
(株)デンソー	29,647	9.33
日本マスタートラスト信託銀行(株)<信託口>	21,657	6.81
サード アベニュー バリュウ ファンド カストディアルトラスト カンパニー	11,383	3.58
バンク オブ パーミューダ リミテッド ハミルトン	8,470	2.66
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)<信託口>	8,206	2.58
東和不動産(株)	7,697	2.42
日本生命保険(相)	6,735	2.12
アイシン精機(株)	6,578	2.07
豊田通商(株)	6,289	1.98

(注) 当社は、自己株式(7,603千株)を所有していますが、上記の大株主からは除いています。

株価の推移



会社の概要

(2005年3月31日現在)

創立	1926年11月18日
資本金	804億円
正従業員数	連結31,162名、単独10,843名
本社所在地	〒448-8671 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地 TEL (0566) 22-2511 (代表)
工場・事務所 (生産品目)	刈谷工場(繊維機械、カーエアコン用コンプレッサー) 大府工場(カーエアコン用コンプレッサー部品、ダイカスト品) 共和工場(電子機器、自動車用プレス型) 長草工場(車両) 高浜工場(産業車両、物流システム機器) 碧南工場(自動車用・産業車両用エンジン) 東知多工場(鑄造品) 東浦工場(カーエアコン用コンプレッサー部品) 東京支社、大阪事務所
海外生産拠点 (生産品目)	アメリカ4拠点(産業車両、カーエアコン用コンプレッサー およびマグネットクラッチ) カナダ2拠点(産業車両) フランス(産業車両) ドイツ(カーエアコン用コンプレッサー) イタリア(産業車両) スウェーデン2拠点(産業車両) 中国2拠点(産業車両、鑄造品) インド(繊維機械、自動車部品)

役員 (2005年6月22日現在)

取締役会長	石川忠司
取締役副会長	中山尚三 野口紘一郎
取締役社長	豊田鐵郎
取締役副社長	佐藤則夫 遠藤司郎 竹内和彦 上村伸治郎
専務取締役	松浦達郎 吉田成毅 加藤正文 豊田康晴
常務取締役	室殿 豊 吉田和憲 下 昇治 井上亮二 山田耕作 三矢金平
取締役名誉会長	豊田芳年
取締役	豊田達郎 竹中健二 辻 博文 山北幸男 小川隆希 佐々木一衛 関森俊幸 森下洋司 古川真也 伊藤日藝 大西 朗
常勤監査役	御友重孝 伊藤正宣
監査役	池淵浩介 古川晶章 内山田竹志

株式に関するお手続きについて

- 名義変更、住所変更、単元未満株式の買い取りなど、株式に関する事務はUFJ信託銀行(株)でお取り扱いしていますので、裏面に記載の連絡先までお問い合わせください。
- 銀行・郵便局の口座振込による配当金のお受け取りをご希望の場合は、「配当金振込指定書」に必要事項をご記入・押印のうえ、UFJ信託銀行 証券代行部にご提出ください。

- 株券等保管振替制度ご利用の方は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

各種お手続き用紙は、以下の方法でもご請求いただけます。

フリーダイヤル ☎0120-24-4479

インターネット <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

「株式に関するお手続き」の「お手続き用紙のご請求」をご参照ください。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
株式名義書換	
名義書換代理人	UFJ信託銀行(株)
同事務取扱所	〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 UFJ信託銀行(株)証券代行部 TEL(03)5683-5111(代表)
同取次所	UFJ信託銀行(株)全国各支店 野村證券(株)本店・全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞・中日新聞 (決算公告は、貸借対照表・損益計算書を下記 ホームページに掲載する方法をとっています。)
上場証券取引所	東京・名古屋・大阪の各証券取引所

ホームページのご案内

<http://www.toyota-shokki.co.jp/>



参りました… ため息モノの見事な 仕事ぶりですよ。

お気づきでしたか、私たちが知らない、物流に関する安全のしゅみがあることを。それはこのフォークリフトがカギじゃないかなと。だって重い荷物を運んでいるのに、とてもキビキビ動いてるでしょ？

聞き込みしてみると、「SAS※1」というシステムが働いているから車両の安定性を保つよう後輪部分をロックしたり、荷崩れや落下を予防するためマストを自動制御して、人や荷物の安全が守られるそう。相手はかなり頭脳派だったんです！

それでどこが造ったのか？気になりますよね。

「豊田自動織機」って会社なんですよ。

この会社のフォークリフト※2、高い安全性などが評価され、世界で一番使われているんです！※3

世界が認める技術力。豊田自動織機のこれからは楽しみになってきましたよ！

※1：System of Active Safety

※2：豊田自動織機のフォークリフトは、国内ではTOYOTA L&Fブランドで販売しています。

※3：2004年世界販売シェア26%（自社調べ）

安全性の答えは、
SAS搭載
フォークリフト。



(表紙および上記の文章は、当社が雑誌に掲載した
広告を元にしています。)

 株式会社 豊田自動織機
愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地 〒448-8671
TEL (0566) 22-2511 (代表) FAX (0566) 27-5650



この印刷物は、環境保護のため再生紙を使用しています。



この用紙の印刷には環境に配慮した植物性大豆油墨を使用しています。